

2021年度 第2四半期 決算補足説明資料

2021年10月29日

南海電気鉄道株式会社

(東証1部 9044 <http://www.nankai.co.jp/>)

I.	2021年度 第2四半期 決算概要	P. 2
	1. 業績ハイライト	P. 3
	2. セグメント別の状況	P. 4
	3. 営業外・特別損益の状況	P. 16
	4. 資産、負債及び純資産の状況	P. 17
	5. キャッシュ・フローの状況	P. 18
II.	2021年度 通期業績予想	P. 19
	1. 業績予想策定的前提条件	P. 20
	2. 業績ハイライト	P. 22
	3. セグメント別の状況	P. 23

I. 2021年度 第2四半期 決算概要

1. 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2021/2Q 実績 (A)	2020/2Q 実績 (B)	対2020/2Q		2021/2Q 期初予想 (2021年4月公表) (C)	対2021/2Q期初予想		(参考) 2019/2Q 実績
			増減額(A-B)	増減率		増減額(A-C)	増減率	
営業収益 (収益認識基準適用前)	91,614 (86,034)	90,970	643 (△ 4,935)	0.7% (△ 5.4%)	99,600	△ 7,985	△ 8.0%	116,829
営業利益 (収益認識基準適用前)	3,797 (3,850)	253	3,544 (3,597)	- (-)	4,800	△ 1,002	△ 20.9%	21,175
営業外収益	934	775	158	20.5%				799
営業外費用	2,213	2,783	△ 569	△ 20.5%				2,419
経常利益	2,518	△ 1,754	4,273	-	3,100	△ 581	△ 18.8%	19,555
特別利益	23,593	39	23,553	-				1,372
特別損失	23,748	562	23,185	-				980
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,587	△ 1,904	3,491	-	1,500	87	5.8%	13,398

<主な増減理由等：対2020/2Q>

不動産業においてマンション販売が減少した一方、運輸業における輸送人員の増加や収益認識基準の適用により増収、運輸業における損失幅の縮小等により増益

<主な増減理由等：対2021/2Q期初予想>

緊急事態宣言が再発出される等、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したことにより、減収減益となった一方、一部の特別損失(固定資産除却損等)の発生が下期に繰り延べられたことにより親会社株主に帰属する四半期純利益は微増益

2. セグメントの構成状況 (2021年9月末現在)

【連結子会社55社・非連結子会社16社・関連会社6社 (うち持分法適用会社0社)】

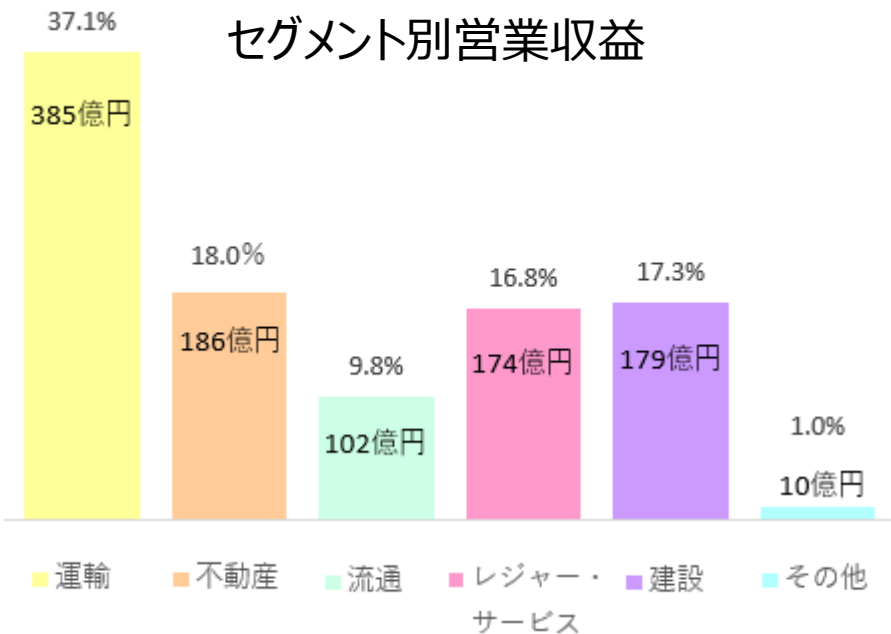
増減 (対 2021年3月末)

非連結子会社の増加 3社 (新規設立) : 株式会社Every Buddy
株式会社LAWN
株式会社EMOSHARE

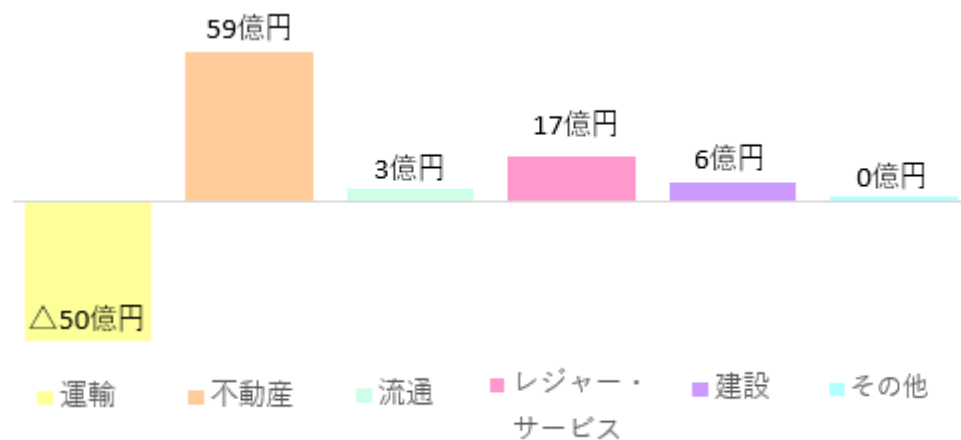


※当社は運輸業、不動産業、流通業、レジャー・サービス業に、泉北高速鉄道株式会社は運輸業と不動産業に重複して含まれております。

セグメント別営業収益



セグメント別営業利益

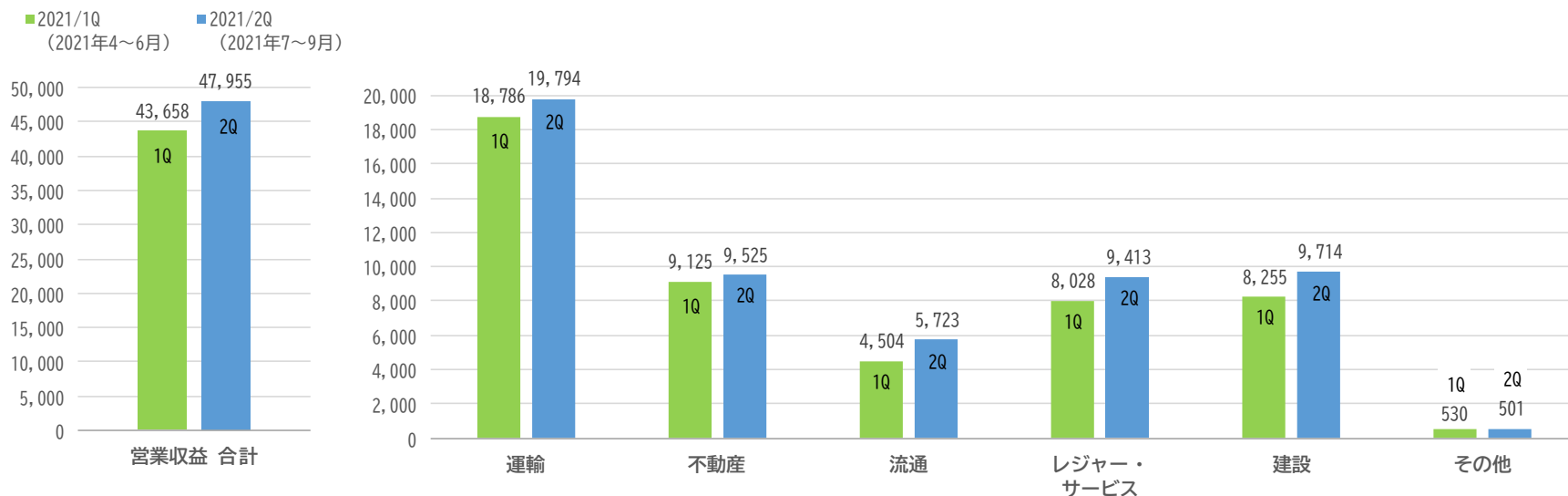


※ 構成比 : セグメント間取引を含む営業収益に対する比率

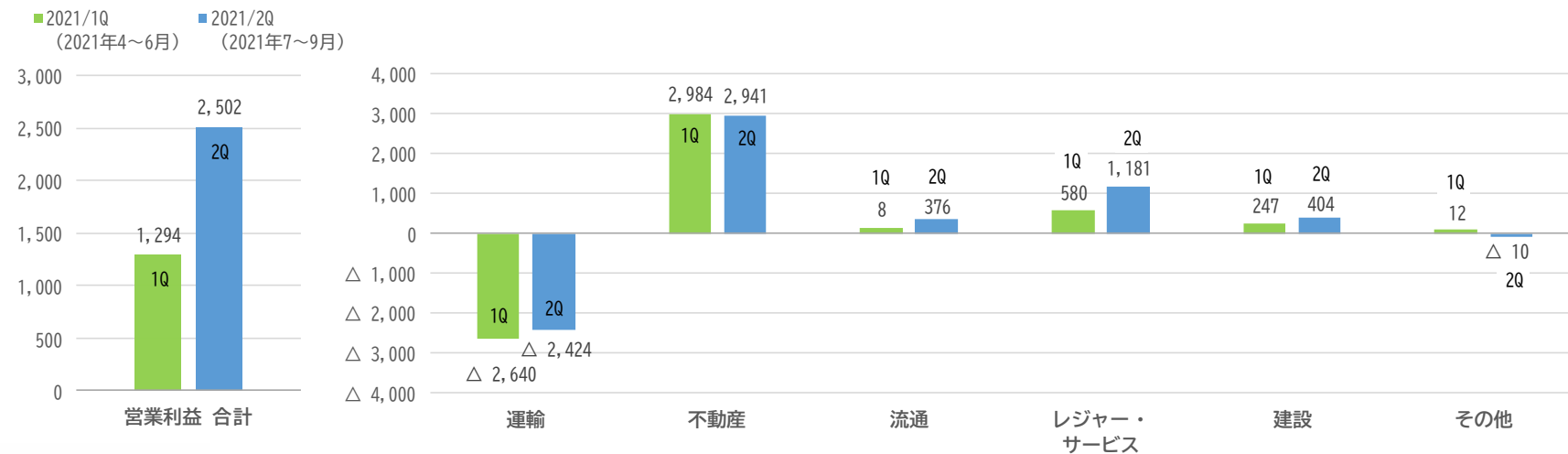
2. セグメント別営業収益・営業利益

① 四半期会計期間（3ヶ月）営業収益推移

（単位：百万円）



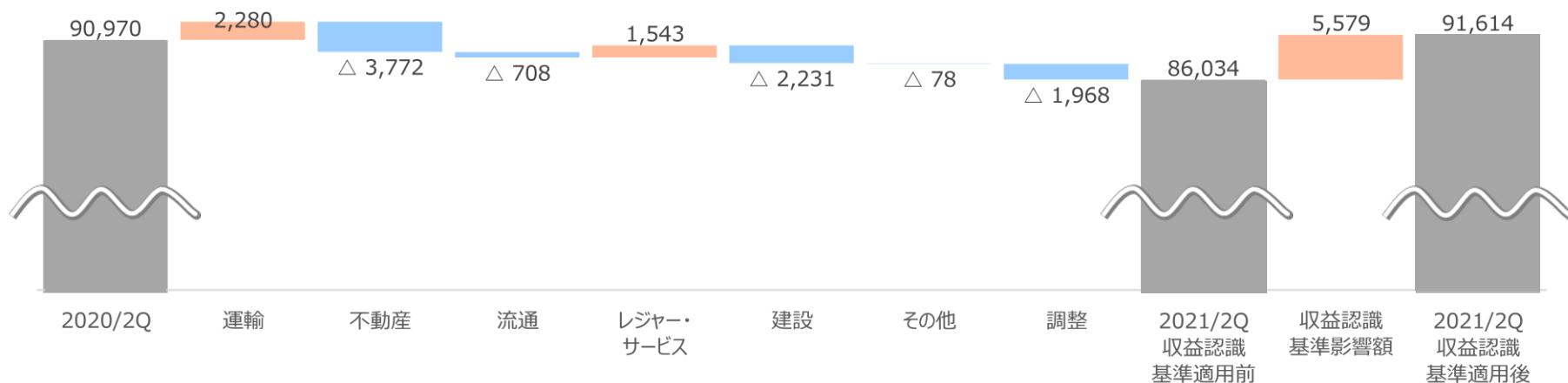
② 四半期会計期間（3ヶ月）営業利益推移



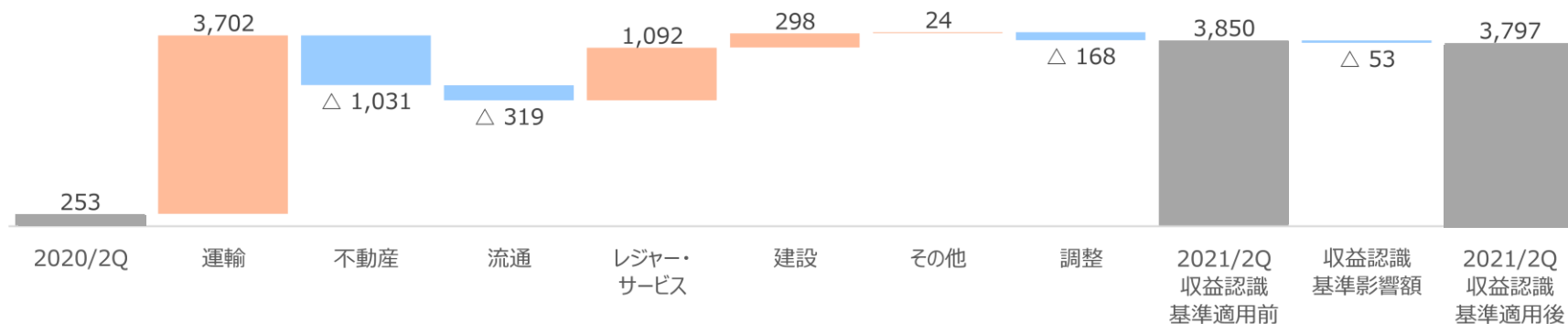
2. セグメント別営業収益・営業利益

(単位：百万円)

① 営業収益の増減額 (対 2020/2Q比較)



② 営業利益の増減額 (対 2020/2Q比較)



2. セグメント別営業収益・営業利益

(単位：百万円)

	営業収益					営業利益				
	2021/ 2Q実績	2020/ 2Q実績	対2020/2Q		(参考) 2019/ 2Q実績	2021/ 2Q実績	2020/ 2Q実績	対2020/2Q		(参考) 2019/ 2Q実績
			増減額	増減率				増減額	増減率	
運 輸 業	38,580 (33,032)	30,752	7,828 (2,280)	25.5% (7.4%)	52,416	△ 5,065 (△ 5,101)	△ 8,803	3,737 (3,702)	- (-)	9,388
不 動 産 業	18,650 (17,887)	21,660	△ 3,009 (△ 3,772)	△ 13.9% (△ 17.4%)	23,222	5,926 (5,987)	7,019	△ 1,093 (△ 1,031)	△ 15.6% (△ 14.7%)	7,570
流 通 業	10,228 (11,205)	11,913	△ 1,685 (△ 708)	△ 14.1% (△ 5.9%)	16,747	384 (411)	731	△ 346 (△ 319)	△ 47.4% (△ 43.7%)	2,110
レジャー・ サービス業	17,442 (17,176)	15,633	1,808 (1,543)	11.6% (9.9%)	20,570	1,762 (1,761)	669	1,092 (1,092)	163.2% (163.1%)	1,629
建 設 業	17,970	20,201	△ 2,231	△ 11.0%	17,792	652	353	298	84.6%	578
その他の事業	1,032	1,110	△ 78	△ 7.1%	856	2	△ 22	24	-	△ 63
調 整 額	△ 12,290 (△ 12,269)	△ 10,300	- (-)	- (-)	△ 14,776	136 (136)	304	- (-)	- (-)	△ 39
合 計	91,614 (86,034)	90,970	643 (△ 4,935)	0.7% (△ 5.4%)	116,829	3,797 (3,850)	253	3,544 (3,597)	- (-)	21,175

※ () は収益認識基準適用前の数値

2. セグメント情報（運輸業）

（単位：百万円）

運輸業		2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	増減額	増減率	2021/2Q 収益認識基準影響額
鉄	道 事 業	22,908	21,782	1,126	5.2%	△ 45
バ	ス 事 業	7,719	6,937	782	11.3%	4
そ の 他 の 運 輸 業		10,915	4,672	6,243	133.6%	5,589
調 整 額 （セグメント内）		△ 2,963	△ 2,639	—	—	△ 0
営 業 収 益		38,580	30,752	7,828	25.5%	5,548
営 業 利 益		△ 5,065	△ 8,803	3,737	—	35
主 な 内 訳	鉄 道 事 業	△ 3,326	△ 5,246	1,920	—	35
	バ ス 事 業	△ 1,601	△ 2,889	1,288	—	—

（主な増減理由）

- ・依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続くものの、鉄道事業やバス事業において前年同期と比べ輸送人員が増加したことや収益認識基準の適用に伴い貨物運送業の収益を総額で認識したことにより増収、費用削減の効果もあり増益

2. 鉄道旅客収入及び輸送人員表（個別）

（単位：百万円・千人）

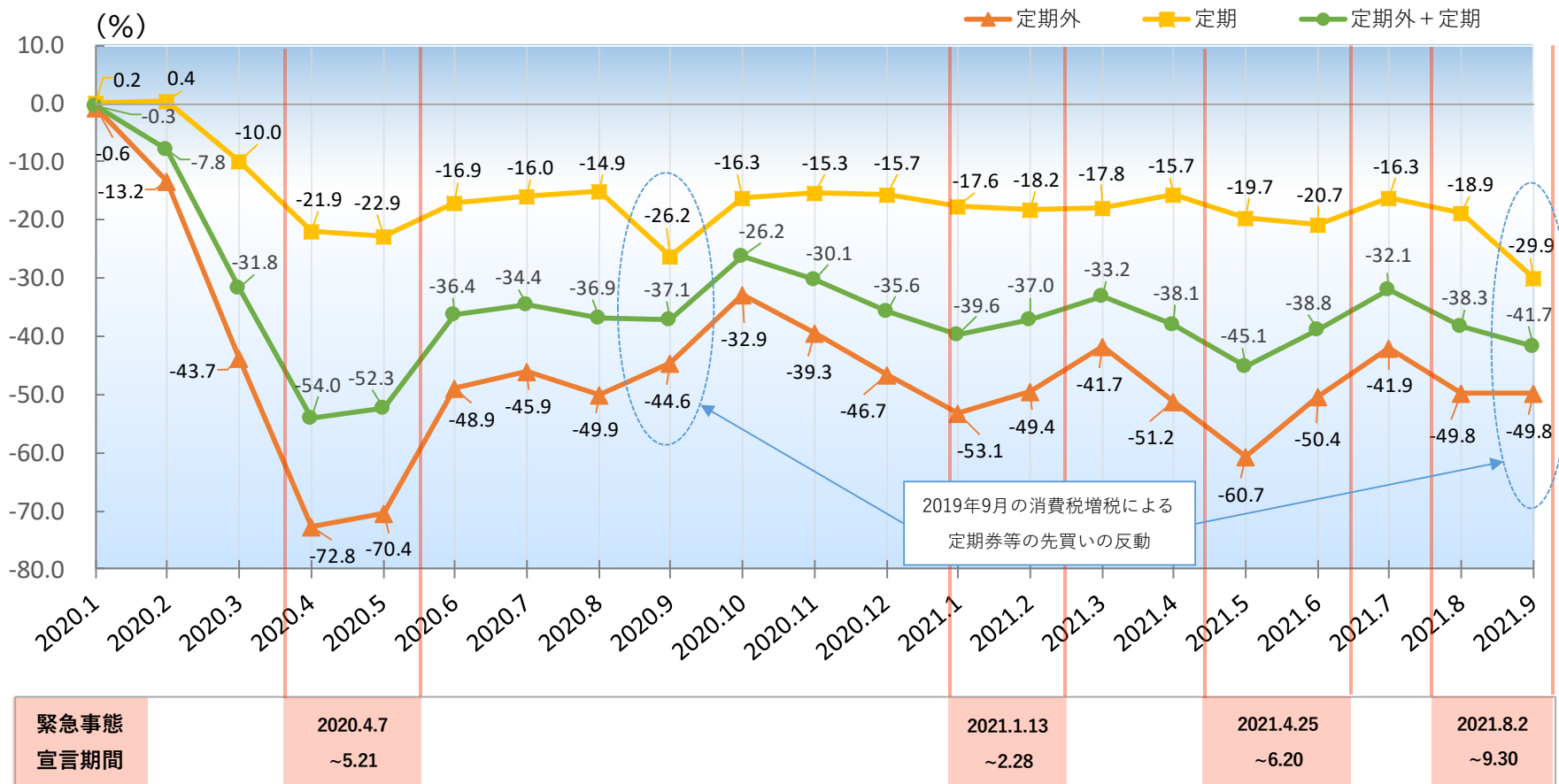
全線		2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	対2020/2Q		対2019/2Q	
				増減	増減率	増減	増減率
旅客収入	定期外	9,231	8,329	901	10.8%	△ 9,477	△ 50.7%
	定期	9,299	9,354	△ 54	△ 0.6%	△ 2,384	△ 20.4%
	合計	18,530	17,684	846	4.8%	△ 11,862	△ 39.0%
輸送人員	定期外	29,983	27,420	2,563	9.3%	△ 21,484	△ 41.7%
	定期	58,970	59,454	△ 484	△ 0.8%	△ 15,062	△ 20.3%
	合計	88,953	86,874	2,079	2.4%	△ 36,546	△ 29.1%

（単位：百万円・千人）

空港線		2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	対2020/2Q		対2019/2Q	
				増減	増減率	増減	増減率
旅客収入	定期外	933	732	200	27.4%	△ 3,738	△ 80.0%
	定期	385	460	△ 75	△ 16.4%	△ 413	△ 51.8%
	合計	1,318	1,193	125	10.5%	△ 4,152	△ 75.9%
輸送人員	定期外	1,381	1,130	251	22.2%	△ 4,439	△ 76.3%
	定期	1,300	1,376	△ 76	△ 5.5%	△ 1,224	△ 48.5%
	合計	2,681	2,506	175	7.0%	△ 5,663	△ 67.9%

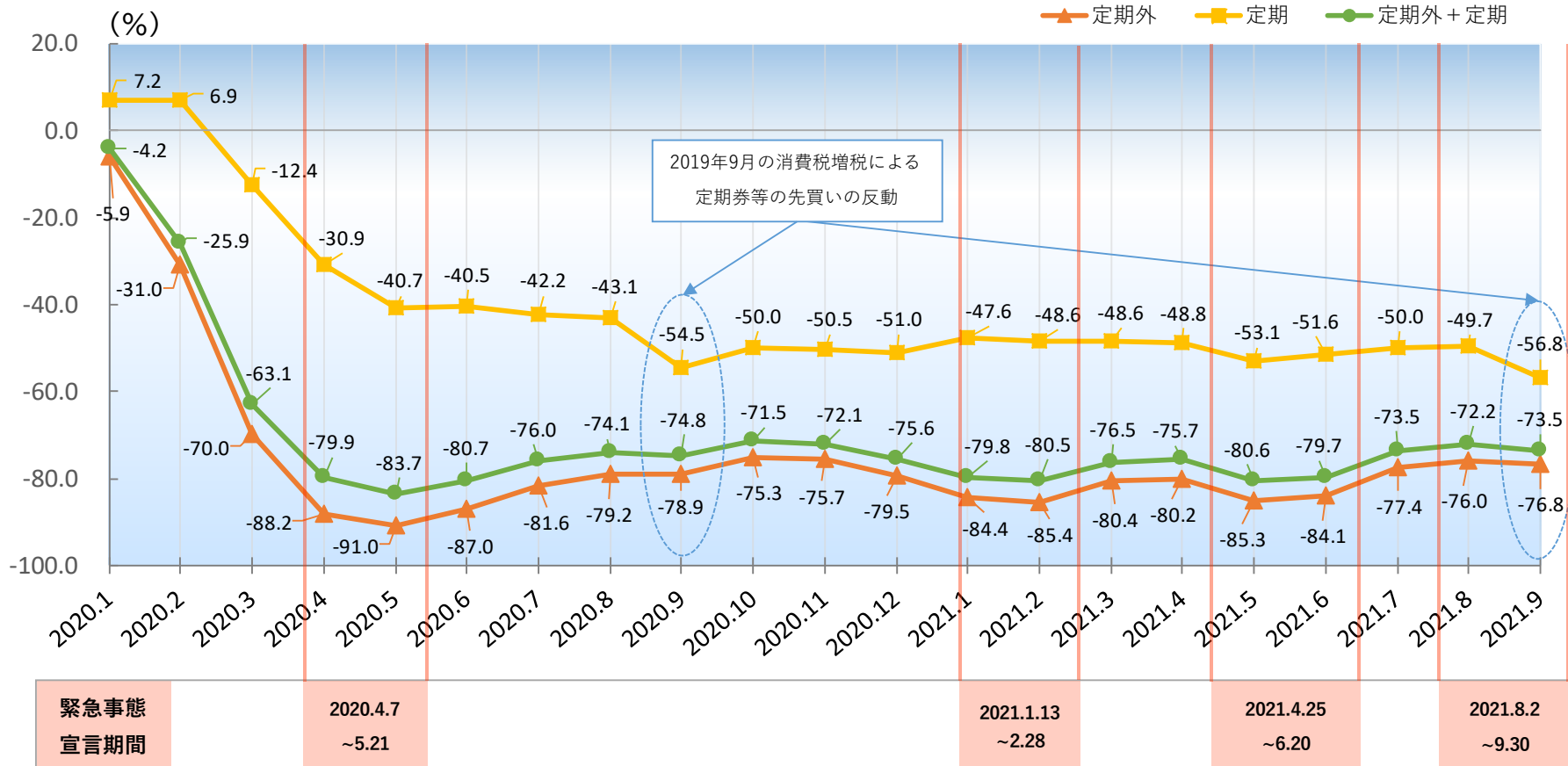
2. セグメント情報（運輸業）

【参考1】（個別－全線）鉄道旅客収入 2019年同月比増減率の推移



2. セグメント情報（運輸業）

【参考2】（個別－空港線）鉄道旅客収入 2019年同月比増減率の推移



2. セグメント情報（不動産業）

（単位：百万円）

不動産業		2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	増減額	増減率	2021/2Q 収益認識基準影響額
不	不動産賃貸業	16,149	15,314	835	5.5%	762
不	不動産販売業	2,706	6,664	△ 3,957	△ 59.4%	—
調整額（セグメント内）		△ 205	△ 318	—	—	△ 0
営業収益		18,650	21,660	△ 3,009	△ 13.9%	762
営業利益		5,926	7,019	△ 1,093	△ 15.6%	△ 61
主な 内訳	不動産賃貸業	5,984	6,172	△ 188	△ 3.0%	△ 63
	不動産販売業	21	954	△ 933	△ 97.8%	1

（主な増減理由）

- ・不動産賃貸業は、収益認識基準の適用に伴い収受する水道光熱費収入を総額で認識したことや、新規物件の寄与もあり増収、既存物件の減収等により減益
- ・不動産販売業は、前年同期に大口のマンション販売（ヴェリテ津久野他）があった反動等により減収減益

2. セグメント情報（流通業）

（単位：百万円）

流通業	2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	増減額	増減率	2021/2Q 収益認識基準影響額	
ショッピングセンターの経営	5,494	5,700	△ 205	△ 3.6%	324	
駅ビジネス事業	5,231	6,570	△ 1,339	△ 20.4%	△ 1,228	
その他の流通業	315	376	△ 60	△ 16.2%	—	
調整額（セグメント内）	△ 813	△ 733	—	—	△ 72	
営業収益	10,228	11,913	△ 1,685	△ 14.1%	△ 976	
営業利益	384	731	△ 346	△ 47.4%	△ 27	
主な内訳	ショッピングセンターの経営	171	651	△ 480	△ 73.7%	△ 27
	駅ビジネス事業	243	93	150	161.4%	—

（主な増減理由）

- ・収益認識基準の適用に伴い消化仕入に係る収益を純額で認識したことや、ショッピングセンターの経営において緊急事態宣言の発出に伴う商業施設（なんばパークス、なんばCITY等）の臨時休館の影響等により減収減益

2. セグメント情報（レジャー・サービス業）

（単位：百万円）

レジャー・サービス業	2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	増減額	増減率	2021/2Q 収益認識基準影響額
ビル管理メンテナンス業	10,675	9,902	772	7.8%	△ 11
その他のレジャー・サービス業	7,683	6,656	1,026	15.4%	280
調整額（セグメント内）	△ 915	△ 925	—	—	△ 2
営業収益	17,442	15,633	1,808	11.6%	265
営業利益	1,762	669	1,092	163.2%	0
主な 内訳 ビル管理メンテナンス業	513	269	243	90.3%	—

（主な増減理由）

- ・ビル管理メンテナンス業は、設備工事収入の増加により増収増益
- ・その他のレジャー・サービス業は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復や旅行業で収益認識基準の適用に伴い企画旅行収入を総額で認識したことにより増収増益

2. セグメント情報（建設業 / その他の事業）

（単位：百万円）

建設業	2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	増減額	増減率	2021/2Q 収益認識基準影響額
建設業	17,980	20,207	△ 2,227	△ 11.0%	—
調整額（セグメント内）	△ 10	△ 6	—	—	—
営業収益	17,970	20,201	△ 2,231	△ 11.0%	—
営業利益	652	353	298	84.6%	—

（主な増減理由）完成工事高の減少により減収、利益率の改善により増益

（単位：百万円）

その他の事業	2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	増減額	増減率	2021/2Q 収益認識基準影響額
その他の事業	1,036	1,117	△ 80	△ 7.2%	—
調整額（セグメント内）	△ 4	△ 6	—	—	—
営業収益	1,032	1,110	△ 78	△ 7.1%	—
営業利益	2	△ 22	24	—	—

（主な増減理由）システム収入の減少により減収、売上原価の減少により増益

3. 営業外・特別損益の状況

(単位：百万円)

		2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	増減額
営	業	934	775	158
外	収			
益	息			
	受	12	12	0
	取	397	388	9
	配			
	当			
	金			
営	業	2,213	2,783	△ 569
外	費			
用	用			
	支	1,958	2,087	△ 128
	払			
	利			
	息			
特	別	23,593	39	23,553
利	益			
	額			
	工	22,741	20	22,720
	事	851	18	833
	負			
	担			
	金			
	等			
	受			
	入			
	額			
	そ			
	の			
	他			
	(
	大			
	規			
	模			
	施			
	設			
	等			
	協			
	力			
	金			
	他			
特	別	23,748	562	23,185
損	失			
	額			
	額			
	ス			
	新	22,737	20	22,717
	型	609	427	181
	コ			
	ロ			
	ナ			
	ウ			
	イ			
	ル			
	ス			
	に			
	よ			
	る			
	損			
	失			
	そ	400	114	286
	の			
	他			
	(
	固			
	定			
	資			
	産			
	除			
	却			
	損			
	他			

4. 資産、負債及び純資産の状況

(単位：百万円)

	2021年9月末	2021年3月末	増減額	主な増減理由
流動資産	83,357	101,068	△ 17,711	<ul style="list-style-type: none"> ●流動資産 <ul style="list-style-type: none"> ・現金及び預金の減少 △96億円 ・受取手形及び売掛金の減少 △38億円
固定資産	833,774	861,161	△ 27,386	<ul style="list-style-type: none"> ●固定資産 <ul style="list-style-type: none"> ・高石市内連続立体交差化工事（上り線）の竣工に伴う固定資産の圧縮記帳等による減少
資産合計	917,131	962,229	△ 45,098	
負債合計	660,255	703,660	△ 43,404	<ul style="list-style-type: none"> ●負債 <ul style="list-style-type: none"> ・高石市内連続立体交差化工事（上り線）の竣工に伴う流動負債その他の減少 ・有利子負債残高の減少
純資産	256,875	258,569	△ 1,693	
負債純資産合計	917,131	962,229	△ 45,098	

	2021年9月末	2021年3月末	増減額
有利子負債	4,920	5,064	△ 144
ネット有利子負債	4,599	4,646	△ 47

●純資産			
・剰余金の配当			△28億円
・収益認識基準適用初年度累積的影響			△ 6億円
・親会社株主に帰属する四半期純利益			+ 15億円

5. キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2021/2Q 実績	2020/2Q 実績	増減額	主な増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	13,524	11,426	2,097	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業活動によるキャッシュ・フロー ・売上債権の増減 + 77億円 ・税金等調整前四半期純利益 + 46億円 ・仕入債務の増減 △ 50億円 ・棚卸資産の増減 △ 25億円 ・その他の営業活動 △ 22億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 5,835	△ 18,899	13,064	<ul style="list-style-type: none"> ● 投資活動によるキャッシュ・フロー ・固定資産の取得による支出 + 137億円 ・工事負担金等受入による収入 △ 13億円
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 17,322	62,779	△ 80,101	<ul style="list-style-type: none"> ● 財務活動によるキャッシュ・フロー ・有利子負債増減額 △ 793億円 ○ 当期 借入金 △ 144億円 ○ 前期 借入金 + 501億円 社債 + 198億円 コマーシャル・ペーパー △ 50億円
現金及び現金 同等物の期末残高	31,284	72,337	△ 41,052	

Ⅱ. 2021年度 通期業績予想

1. 業績予想策定の前提条件

- 現時点で入手可能な情報を基に算出していますが、足元では新型コロナウイルスによる影響を受けるものの、ワクチン接種が進んだこと等により、国内を中心に移動需要が徐々に回復していくものと考えています。
- この前提にしたがって、鉄道事業やバス事業における運輸収入、流通業における売上高など、各セグメントの収入への影響を算出しています。
- 費用面については、固定費を中心とした事業構造改革の取り組みのほか、不要不急の費用削減、設備投資の圧縮などの施策を織り込んでおります。

<収益の想定数値>

セグメント	種類	前提条件に基づく想定数値 (コロナ影響を控除した平年ベースからの減少率)		
		2021年度		
		3Q	4Q	
運輸業	鉄道事業 (個別)	定期外 (既設線)	▲25%	▲20%
		定期外 (空港線)	▲65%	▲55%
		定期 (既設線)	▲10%	▲10%
		定期 (空港線)	▲45%	▲40%
	バス事業	一般乗合 (定期外)	▲25%	▲25%
		リムジンバス	▲95%	▲85%
不動産業	不動産賃貸業	ホテル物件	▲75%	▲65%
流通業	ショッピングセンターの 経営	なんばCITY	▲20%	▲10%
		なんばパークス	▲30%	▲10%

<取り組み施策>

- 費用削減額 ▲ 106億円 (うち事業構造改革 ▲ 27億円)
- 設備投資圧縮額 ▲ 168億円

※ いずれもコロナ前 (2019年度) 対比

2. 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2021年度			主な増減要因	2020年度 実績(C)	増減 (A-C)
	修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減 (A-B)			
営業収益 (収益認識基準適用前)	206,400 (194,500)	218,500 (207,500)	△ 12,100 (△ 13,000)	●営業収益 緊急事態宣言の発出による運輸業や流通業などでの減収や建設業の完成工事高減少などにより、大幅な減収	190,813	15,586 (3,686)
営業利益	10,400	14,300	△ 3,900		5,552	4,847
経常利益	7,800	11,100	△ 3,300	●営業利益 減収に対して費用削減策等を織り込むが大幅な減益	1,854	5,945
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,400	6,000	△ 1,600		△ 1,861	6,261
投資額	31,100	32,600	△ 1,500	●親会社株主に帰属する当期純利益 営業減益の影響を受け減益	27,966	3,133
減価償却費	28,800	29,100	△ 300	●投資額 引き続き投資を抑制	29,410	△ 610
EBITDA※	40,000	44,100	△ 4,100	●有利子負債残高 新型コロナウイルス対策の緊急融資利用により増加	35,695	4,304
有利子負債残高	482,700	482,000	700		506,475	△ 23,775
純有利子負債残高	455,500	456,100	△ 600		464,619	△ 9,119
有利子負債残高/ EBITDA※倍率	12.1倍	10.9倍	1.2pt		14.2倍	△ 2.1倍
純有利子負債残高/ EBITDA※倍率	11.4倍	10.3倍	1.1pt		13.0倍	△ 1.6倍

※ 営業利益 + 受取配当金 + 減価償却費

3. セグメント別営業収益・営業利益

(単位：百万円)

		2021年度			主な増減要因	2020年度 実績(C)	増減額 (A-C)
		修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減額 (A-B)			
運 輸 業	営業収益	82,800 (72,200)	85,800 (78,100)	△ 3,000 (△ 5,900)	・鉄道事業 △32億円 運輸収入△33億円 うち空港線△7億円 ・バス事業 △20億円 リムジンバス△11億円 ・貨物運送業 +28億円 航空貨物好調	66,566	16,233 (5,633)
	営業利益	△ 6,600 (△ 6,800)	△ 3,000 (△ 3,300)	△ 3,600 (△ 3,500)	・鉄道事業 △21億円 人件費・経費の減 ・バス事業 △10億円 人件費・経費の減	△ 13,599	6,999 (6,799)
不 動 産 業	営業収益	45,500 (43,700)	46,300 (44,200)	△ 800 (△ 500)	・不動産販売業 △6億円 マンション販売の減少	41,777	3,722 (1,922)
	営業利益	11,500 (11,600)	11,200 (11,400)	300 (200)	・不動産販売業 +2億円 諸税、広告宣伝費の減少	12,878	△ 1,378 (△ 1,278)
流 通 業	営業収益	22,500 (24,100)	24,200 (25,900)	△ 1,700 (△ 1,800)	・SC経営 △14億円 緊急事態宣言による休館影響	25,312	△ 2,812 (△ 1,212)
	営業利益	800 (900)	1,200 (1,300)	△ 400 (△ 400)	・SC経営 △3億円 減収、休館期間中の費用減少	1,883	△ 1,083 (△ 983)

※ () は収益認識基準適用前の数値

3. セグメント別営業収益・営業利益

(単位：百万円)

		2021年度			主な増減要因	2020年度 実績(C)	増減額 (A-C)
		修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減額 (A-B)			
レジャー・ サービス業	営業収益	38,500 (37,300)	40,100 (37,200)	△ 1,600 (100)	・旅行業 △16億円 旅行取扱高の減少	34,756	3,743 (2,543)
	営業利益	3,000	2,800	200	・ビル管理メンテナンス業 +1億円 工事受注増	2,285	714
建設業	営業収益	42,400	46,400	△ 4,000	完成工事高の減	45,490	△ 3,090
	営業利益	1,500	1,900	△ 400	減収による減益	1,699	△ 199
その他の 業	営業収益	2,600	2,800	△ 200		3,027	△ 427
	営業利益	100	100	-		248	△ 148
調整額	営業収益	△ 27,900 (△ 27,800)	△ 27,100			△ 26,116	
	営業利益	100	100			155	
合計	営業収益	206,400 (194,500)	218,500 (207,500)	△ 12,100 (△ 13,000)		190,813	15,586 (3,686)
	営業利益	10,400	14,300	△ 3,900		5,552	4,847

※ () は収益認識基準適用前の数値

3. セグメント別投資額・EBITDA

(単位:百万円)

	投資額			修正予想額 主な内訳	EBITDA ^{※1}		
	2021年度				2021年度		
	修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減額 (A-B)		修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減額 (A-B)
運 輸 業	14,500	14,400	100	<収益拡大投資 102億円> ・なんばエリア周辺開発 39億円	9,400	13,100	△ 3,700
不 動 産 業	13,100	14,400	△ 1,300	・物流賃貸事業 19億円 大阪府食品流通センター 新A棟建設等	19,400	19,100	300
流 通 業	2,000	2,000	-	<安全・更新投資 208億円> ・鉄道関連工事 115億円 車両新造、高架橋補強等	5,100	5,600	△ 500
レジャー・ サービス業	2,300	2,600	△ 300	・不動産および 流通施設工事 63億円 南海ターミナルビル既存施設改修等	4,300	4,200	100
建 設 業	100	0	100		1,600	2,000	△ 400
その他の事業	0	0	-		100	100	-
調 整 額	△ 900	△ 800	-		※2 100	※2 0	-
合 計	31,100	32,600	△ 1,500		40,000	44,100	△ 4,100

※1 営業利益+受取配当金+減価償却費

※2 EBITDAの調整額はセグメント間取引消去と受取配当金の合計額であります。

3. 運輸業 鉄道旅客収入と輸送人員表（個別）

(単位：百万円・千人)

全線		2021年度 修正予想	対前年 増減率	2021年度 期初予想	対前年 増減率	2020年度 実績	対前年 増減率
旅客収入	定期外	21,485	15.9%	24,154	30.3%	18,544	△ 47.1%
	定期	18,728	1.0%	18,860	1.7%	18,548	△ 17.8%
	合計	40,214	8.4%	43,014	16.0%	37,092	△ 35.6%
輸送人員	定期外	68,343	12.6%	76,264	25.7%	60,670	△ 37.9%
	定期	118,724	1.0%	118,331	0.7%	117,494	△ 17.1%
	合計	187,067	5.0%	194,595	9.2%	178,164	△ 25.6%

(単位：百万円・千人)

空港線		2021年度 修正予想	対前年 増減率	2021年度 期初予想	対前年 増減率	2020年度 実績	対前年 増減率
旅客収入	定期外	2,712	60.8%	3,277	94.3%	1,686	△ 80.3%
	定期	810	△ 3.3%	959	14.5%	838	△ 45.8%
	合計	3,522	39.5%	4,237	67.8%	2,524	△ 75.0%
輸送人員	定期外	3,869	50.3%	4,918	91.1%	2,574	△ 75.9%
	定期	2,710	5.4%	3,139	22.1%	2,570	△ 47.5%
	合計	6,579	27.9%	8,057	56.6%	5,144	△ 67.0%